

# 1. 評価報告概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4071900924		
法人名	医療法人吉峯医院		
事業所名	医療法人吉峯医院 グループホーム日の出		
所在地	福岡県田川市新町24番24号		
	電話	0947-44-5588	FAX 0947-44-2030

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポート うりずん		
所在地	福岡県直方市古知1丁目6番48号		
訪問調査日	平成20年7月17日	評価確定日	平成20年8月11日

## 【情報提供項目より】(平成 20年 7月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 5月 20日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤	15人, 非常勤 4人, 常勤換算 人

### (2) 建物概要

建物構造	耐火建築S造り		
	3 階建ての	2 階 ~	3 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	16,050 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	一日当たり、1000円		

### (4) 利用者の概要(7月 1日現在)

登録人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	8 名	要介護2	4 名		
要介護3	4 名	要介護4			
要介護5	1 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 87.7 歳	最低	73 歳	最高	94 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	吉峯医院 吉峯歯科医院 一本松病院 村上外科医院
---------	--------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

医療法人に併設され、交通量の多い商店街に面した3階建てビルの2・3階に各ユニットを開所しているグループホーム日の出は、町の活気がそのままホームに伝わってくる立地環境である。入居者は食事の希望や座席の配置などで自己主張が出来、職員は入居者それぞれが「認知症があっても自分が出来ること」を引き出して、職員、入居者それぞれが家族的な役割を果たしている。地域に密着したホームが実現できる様に管理者は積極的に町内活動などに向いて、入居者の安全の確保やなじみの関係が構築できるようアプローチしている。併設のデイケアの理学療法の提供や、生活の中での作業療法が行われており、入居者の生活リハビリになっている。年々入居者が重度化しているが、入居者や家族のホームへの信頼は篤く、医師の往診や定期健診を活用し、在宅酸素療法などを行っている。看取りに関する方針の同意書なども整備しており、昨年はホームでの見取りを実践している。管理者は、地域の産業構造の変化のため、介護職員の確保に苦労しているが、近くの県立大学学生をアルバイトで雇用したり、次世代育成を行っている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価結果を踏まえ、個人情報の保護に関する規程を共用空間に掲示すると共に、入居者や家族に配布している。また、非常災害時の備蓄として、安心食事セットや水、携帯コンロ等を整備している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回、外部評価を受ける前に大幅な職員の交代があったため、自己評価には職員全体では取り組みにくく、管理者、介護支援専門員が職員の意見をまとめる形となった。
重点項目③	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)
	運営推進会議の実施要領が整備され、2ヶ月ごとに実施できている。市介護保険課職員や自治会組長、家族代表者、入居者代表が参加し前回の外部評価の結果や入居者の状況などを報告している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)
	毎月、日の出だよりを配布し、家族に入居者の暮らしぶりや行事を伝えている。職員の交代や、受診結果は訪問時や電話で伝えている。苦情相談の窓口が重要事項説明書に明記されており、公的機関のポスターも貼られている。ご意見箱が設置され、入居者は食事の希望や日々の困りごとを投函し全員で解決するようにしている。家族会が設置され忌憚のない意見が述べられるようにしている。金銭管理については個別に出納長が整備され、家族訪問時に説明し、確認印をもらっている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会加入は実現できていないが、近隣の住民である管理者が自治会に加入していることで近隣住民との交流は深まっており、町内清掃の参加や子供会の廃品回収の参加、餅つきの招待など相互交流が行われている。毎年地域の県立大学の学生をアルバイトで雇用するなど、地域貢献もしている。

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念である「ゆったりとした暮らしやすい環境、その人らしさを大切に」を廊下や事務室に掲示している。「地域住民との交流の下」、「地域社会の一員として」など運営規定、重要事項説明書に明記しており、地域密着型サービスとしての取り組みが行われている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝のミーティングや申し送りで理念を唱和している。第一木曜日には施設長、管理者も含めて、理念の共有を行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会加入は実現できていないが、近隣の住民である管理者が自治会に加入したことで、近隣住民との交流が深まった。町内清掃の参加、餅つきの参加や、子ども会の廃品回収の参加、盆踊りに呼ばれたりしている。毎年、地域の県立大学の学生をアルバイトで雇用している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価を踏まえて、改善シートを作成し災害対策や個人情報の保護規程の掲示、個人情報の利用に関する同意書の整備など具体的な改善が行われている。今回の外部評価については職員の入れ代わりで、職員の介護の経験年数にばらつきがあり全員での取り組みがしづらく、管理者が各職員の意見を聞いてまとめている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の実施要領が整備され、2ヵ月ごと実施している。会議には市介護保険課職員や地区自治会組長、入居者代表、家族代表、ホーム職員が参加し外部評価の結果を報告したり、入居者の生活状況の報告、日の出便りの配布などを行っており、記録も整備されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	外部評価の結果を報告したり、日の出だよりを届けたりしている。ホーム側から地域の公民館を利用し、認知症の理解について研修を行いたいと提案している。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者と職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会をもち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれを活用できるように取り組んでいる。	入居者の権利10か条を掲示しており、成年後見制度、地域権利擁護事業のパンフレットの整備をしている。入居者に成年後見制度の説明は行っているが記録がない。近々地域権利擁護事業の研修会に参加の予定である。	○	地域権利擁護事業、成年後見制度の理解と活用を促進するために、入居者への説明の記録の整備をお願いしたい。また、研修会に定期的に参加できる仕組みを作っていただきたい。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、日の出だよりを配布している。入居者の暮らしぶりや職員の交代、受診結果は家族の訪問時や電話で報告しているが、記録が整備されていない。金銭管理については個別に出納帳が整備され、家族訪問時に説明し、確認印をもらっている。	○	家族への説明の記録をお願いしたい。
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書にホーム及び公的機関の苦情相談窓口を明記し、公的相談窓口のポスターも貼っている。ご意見箱を設置し、入居者や家族の要望を取り入れるようになっている。家族会を年に二回花見なども兼ねて開催し、入居者と家族のみの会合にして自由に意見交換できる機会を設けている。運営推進会議には、家族代表者が参加し意見を述べている。今後も地域の祭りに家族を招待するなどのアプローチを計画している。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は入居者の特性を理解し、職場の活性化を心がけているが、昨年から介護労働全体の就労の魅力の低下のためか、他職種への転職を理由の離職が多発し、入居者、家族に不安を与えたと痛感している。今回の反省を生かして今後は、コミュニケーションのとりやすい関係構築や、研修会の参加を増やしたり、ディケアとの勉強会を行い、魅力ある職場造りをしたいと考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表及び管理者は職員の募集・採用にあたっては性別や年齢を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。	職員の採用はハローワークや就職情報誌などを活用しており、年令や性別などの制限は設けていない。県立大学の学生をアルバイトで雇用し、介護就労の啓発を図っている。雇用契約書が取り交わされ、就業規則も整備されている。有給休暇も定期的にとるようにしている。職員の休憩室が、ホーム外に確保しており、交代で休憩を取る仕組みが出来ている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。	運営規定、重要事項説明書に虐待防止、身体拘束防止が謳われ、人権に関するポスターが貼られている。身体拘束防止マニュアルは整備されているが虐待防止マニュアルがない。今年度は虐待防止、人権研修に参加できていない。	○	虐待防止マニュアルの整備と人権に関する研修会への参加をお願いしたい。
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画は立てられているが、離職者が多かったため新規採用者のOJTに追われて、外部の研修会の参加が出来ないでいる。管理者は今後、認知症に関する月刊誌の購入を行い、業務の間でも知識を得る機会を作りたいと考えている。スーパーバイザーに定期的にホームに来てもらいアドバイスをすることで職員の悩みを解決する様にしている。		
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム協議会には加入していない。以前は他のグループホームとの職員研修などを行っていたが、こここのところ職員の入れ替わりのため実施できないでいる。管理者は同業者との情報交換を行うようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	いきなりサービスを開始するのではなく、御本人に説明し納得してから入居できる様に、体験入居や体験利用の仕組みがある。入居前には看護師やケアマネージャが入居前に訪問し、不安の軽減に努めている。同一法人のデイケアを利用してからの入居者が多く、なじみの関係を構築しやすい。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者のちょっとした一言で、介護に対する意欲をもらったり、長年の経験で得た知識を享受することがあり、仕事と家庭の両立の励みになると感じることがある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	東京センター方式を活用し、入居者の生活歴や職歴、本人、家族の意向を把握し日常生活をアセスメントしている。入居者の生活リズムに合わせた、居宅サービス計画書第3票が作成されている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	遠距離介護や老々介護のため、家族の意向の把握やサービス担当者会議に家族が出席しづらい状況である。職員はカンファレンスなどで情報の共有に取り組んでいる。新任の介護支援専門員は、入居者の状態変化に対応するため担当した職員の協力を得ながら、介護計画を作成しているが個別のアセスメントに至っていない。介護計画は更新時、入居時に入居者や家族に説明し、同意を得ている。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者の状態変化に合わせて介護計画の変更を行っているが家族の同意の捺印の無い介護計画書がある。	○	入居が長期化し、状態が重度化しているため、家族への綿密な説明や介護計画への同意を記録していただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設のデイケアの理学療法士が週3回、リハビリテーションを行っている。デイケアで行う菖蒲湯や柚湯に入ったり、外出など季節の行事に共に参加している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療法人の併設の強みを活かし、充実した医療の提供を行っている。受診状況は家族に随時説明している。訪問診療も協力医療機関が実施している。専門医の受診が必要な場合、受診結果の把握のためにも家族に受診同行を依頼し、協力を得ている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居が長期化し、入居者が重度化している現状から、終末期の看取りについて家族に説明や同意を行った記録があり、ホームで行った看取りは記録されているが、重度化や看取りを行う場合の看護、介護の情報の業務連携の手順が整備されていない。	○	ホームの見取りのあり方について業務連携がとれる仕組みづくりを期待しています。
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	運営規定、契約書に個人情報の保護について謳われており、契約時入居者や家族に配布し同意捺印を得ている。職員は入居者に対し、人生の先輩として配慮した言葉かけ、対応を行っている。次回の人権月間には人権研修に参加を予定している。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の生活暦や生活状況を東京センター方式で把握し、個人のペースに合わせた生活が行えるように支援している。入居者の体調や生活リズムに合わせて、近くの商店街に散歩を兼ねて買物に出かけたり、折り紙や書道を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人の一括配食のため日々の調理は行えないが、食事の要望アンケートをとり、昼食やおやつづくりはホームの入居者が献立から参加している。食事が終わると、後片付け等は各々の役割が出来ており、自然な連携で冗談を交えながら行っている。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に3回は入浴できるようにしている。併設のデイケアの大浴槽を活用して、柚子湯や菖蒲湯などの季節の入浴を楽しめるように配慮している。入浴を拒否する場合、無理強いないで体調に合わせて促していくようにしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	東京センター方式を活用し、趣味・生活暦・職歴を把握し、書道や、折り紙・園芸などの活動を行っている。個々の作品を共用空間の掲示したり、共同で制作した貼り絵等は地区公民館祭りに出品し、祭り見学に出掛けている。また、デイケアのバスを利用し買物に出かけるなど、気晴らしができるように支援している。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	併設のデイケアと協力し、毎月定期的に外出レクリエーションを行っている。日光浴を兼ねて散歩に出かけたり、近隣の商店街に外出したり、その日の希望にあわせて外出できる様支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	交通量の多い立地であるため、一回のデイケアと兼用の玄関は日中もロックされている。2・3階にある各ユニットは階段を使い自由に出入りできるようにしているが、危険防止のため、作成したドアマニュアルに沿って、職員が入居者の希望時、出入りに対応している。入居者は日ごろの散歩や買い物等で近隣の方々顔見知りでもあり、理解や協力を得ている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非常災害マニュアル、緊急連絡網は整備され、避難訓練も夜間を想定し法人職員協力で実施されている。消火器を設置し、非常災害用として食品や卓上コンロ等を備蓄している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の一日の摂取カロリーは明記された献立があり、水分食事の摂取量が記録されている。個々の好みや嚥下、咀嚼を検討し、委託先の管理栄養士が食の形態を工夫している。水分制限の指示のある入居者にはペットボトルを活用し、一日の水分量を本人及び職員が把握できる様にしている。毎月体重測定を行い栄養状態の把握を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ビルの2・3階に各ユニットがあり、ホームのリビングに面して駐車場を取っているため、明るく柔らかい光がリビングに注いでおり、清潔感がある。各部屋に面したリビングの壁は透明なアクリル素材で中が見えるので閉塞感が無く、職員、入居者の動向をさりげなく感じられるつくりとなっている。壁際に冷蔵庫や調理台、食器棚が設置され、中央にテーブルや椅子が置かれている。また、寛ぐ場として各階のエレベーター近くには椅子が置かれている。各階ともシャワーが設置されたトイレが2ヶ所設置されている。入居者に季節を感じてもらいたいとホーム別棟の屋上一角に家庭園がある。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各個室には、なじみの家具や家族写真日用品が持ち込まれており、使い慣れた部屋になっている。		